

幕別町出身の桑井亜乃選手(26)＝アルカス熊谷一立正大大学院、中京大、帯広農業高、幕別中、幕別小出＝の女子7人制ラグビー五輪代表入りが29日、正式に決まり、家族や関係者は喜びに包まれている。父健志さん(63)、母法子さん(62)は、都内で代表発表会見後に行われた壮行会に出席し、まな娘を祝福した。幕別町からは夏季大会で過去最多となる3人目の出場が決定し、五輪ムードがさらに盛り上がっている。母校の帯広農業高校も陸上部の恩師や後輩部員らが快挙に沸いている。

「偉大な先輩励みに」

家族、母校、町も祝福

同町からはマウンテンバイクの山本幸平選手、陸上女子の福島千里選手に続くリオ五輪出場で、飯田晴義町長は「夏季五輪に1つの町から3人も出るのはめったにないことで大変素晴らしい」と喜び、「ケガをしないように代表のチーム力向上に励んでほしい。12人の最終メンバーにも残ると信じている」と期待した。発表があった29日夜、桑

井選手も所属した帯広農業高校の陸上部は学校グラウンドなどで練習中。高校時代の桑井選手と同種目の円盤投げでインターハイに出場する牧村翼さん(3年)は「偉大な先輩の姿は自分たちにとってもありがたい」、桑井選手も教えた顧問の西山修一教諭(49)は、「メンバーに選ばれると思っ

てはいたが、正式に決まったことはうれしい」と満面の笑みを見せた。西山教諭は「彼女のひたむきに競技に取り組む一生懸命さは高校時代から素晴らしいかった。本番では楽しんでほしい」とエール。同高では昨年末に激励の垂れ幕や看板を校舎前に掲示しており、「木浩玉校長も」後輩の励みになる。同窓会も含め、競技観戦の機会を検討したい」と話した。帯広少年ラグビースクールの長澤秀行校長は、「十勝からのオリンピック選手誕生は、スクールの子どもたちの励みになる。桑井選手



桑井選手の五輪出場を喜ぶ帯広農業高校の西山教諭(左)と陸上部の後輩たち

んは「亜乃が代表に選ばれるまでは半信半疑だった。決まってよかった」と笑顔を見せた。桑井選手が7人制ラグビーを本格的に始めたのは中京大を卒業した2012年4月。当初は厳しい練習に弱音を吐いたこともあった。それでも、法子さんが「やめて帰っておいで」と電話で話すと「やめることはしない」ときっぱり言い切ったという。無料通話アプリ「LINE E(ライン)」などで連絡を取っているが、桑井選手と直接会うのは昨年12月に帰省して以来。壮行会では

「おめでとう」と声を掛け、努力をねぎらった。共に「けがが心配」と話すが、健志さんは「家族でリオに行き、応援したい。楽しみです」、法子さんは「一生懸命やってきたことを出してくれたら」と感慨深げに話していた。(松村智裕、眞尾敦、佐藤いづみ、池谷智仁)



桑井亜乃選手がリオ五輪の日本代表に選ばれ笑顔を見せる右から父健志さん、母法子さん(東京都内で、大賀章好撮影)